

令和5年度 地方公共団体における効果的な熱中症対策の推進に係るモデル事業

熊谷市

～熱中症対策のデジタル化への取り組み～

(成果報告会)

【熊谷市】 1. 地域における熱中症対策の事業実施に当たって(現状認識)

(1)地域の課題

埼玉県熊谷市は、人口約19万2000人、東京都心から50～70 k m圏に位置し、ほぼ平坦で、荒川、利根川の水源地に恵まれた肥沃な大地と豊かな自然環境を有している。また、年間を通して晴れの日が多く、夏季の気温が高いことでも知られており、平成19（2007）年8月16日に、当時の国内最高気温40.9℃、平成30（2018）年7月23日には、41.1℃を記録し、国内最高気温を更新した。国内最高気温を計測したことを契機に、「熱中症から市民の健康を守ること」を緊急課題に据え、熊谷市独自の暑さ対策の取組を進めてきた。しかし、以下に示す熱中症に対する課題について残存しているのが現状である。

- ・ 毎年高齢者の熱中症者数が多くを占めていることについて。
- ・ 単身高齢者の見守り不足であることについて。
- ・ 夏場のスポーツイベントや祭事等の熱中症対策について。
- ・ コロナ感染予防対策と熱中症予防対策の両立について。

これらの課題を踏まえ、これまでの熱中症対策の取組について整理を行い、熱中症対策の取組を行っている地元の民間団体等と協力して、新たな取組を目指しているところである。

【熊谷市】 1. 地域における熱中症対策の事業実施に当たって(現状認識)

(2)地域の特徴

埼玉県のパ野部は、高気圧に覆われる夏に、以下のふたつの理由により、周りに比べて暑くなると考えられる。

・ 気温の上昇を抑える冷涼な海からの南風が暖められながら運ばれてくる

高気圧に覆われて晴れた夏の日中は、陸地は海に比べて日射により暖まりやすく、その温度差によって気圧差が生じるために、海から陸に向かって冷涼な海風が吹く。このため、海に近いところでは海風により気温の上昇が抑えられるが、海から遠い所では海風の進入が遅くなることから気温が上がりやすくなる。

埼玉県の平野部は、関東平野の奥まった所に位置し、南からの海風の進入が遅くなる。また、海風は東京などの大きな都市を通ってくる間に暖められて、気温の上昇を抑える効果が小さくなる。このため、埼玉県の平野部は周りに比べて暑くなる。これには、大都市で人工の熱などのために気温が高くなる、「ヒートアイランド現象」も影響していると考えられる。

・ フェーン現象

上空の風が、関東平野の北側や西側の山を越えたあと吹きおりてくることがあります。地上は上空より気圧が高いので、吹きおりてくるにしたがって空気は圧縮されて温度が上がります。これを「フェーン現象」といいます。この温度の上がった空気が、熊谷付近に流れこんで気温が上がります。

都心のヒートアイランド現象により温められた空気が、南寄りの風に乗って運ばれてくことや、上空を吹いている北西風が山を越えて吹き下ろしてくる際に圧縮されて温度が上がるフェーン現象が発生することで、一時的に高い気温を記録することがある。過去に日本最高気温を記録した背景にも上記の特徴が原因であると考えられている。

【熊谷市】 1. 地域における熱中症対策の事業実施に当たって(現状認識)

令和4年度の熱中症搬送者数は、昨年度と比較して、全体で84人増加した。内訳として、乳幼児（6歳以下）は0名、少年（7-17歳）、成人（18-64歳）及び高齢者（65歳以上）で増加した。

熊谷市における熱中症による救急搬送者数推移

年度	年齢区分				傷病程度				件数
	-6歳	7-17歳	18-64歳	65歳-	死亡	重症	中等症	軽症	
2022	0	12	72	88	1	4	47	120	172
2021	0	5	30	53	0	4	22	62	88
2020	0	12	38	75	0	2	37	86	125
2019	0	12	54	73	2	5	42	90	139
2018	1	32	81	90	0	8	56	140	204

10万人当たりの熱中症搬送者数（2018年～2022年の平均）

	年齢区分			
	-6歳	7-17歳	18-64歳	65歳-
全国（参考）	9	67.4	34.2	102.8
熊谷市	2.2	82.5	50.6	132.4

【熊谷市】 2. モデル事業の取組概要

事業名：熱中症対策のデジタル化への取り組み

共同実施者	役割
一般社団法人星川エリアマネジメント	モデル事業全体を管理・運営
株式会社伊藤園	熊谷市内の自動販売機の提供

取組概要

<必須項目>

- (1) 熱中症警戒アラート発表時に備えた対応を策定すること
- (2) 高齢者を対象とした熱中症予防行動の効果的な情報発信に関すること
- (3) 庁内における横断的連絡体制の整備に関すること
- (4) 「クーリングシェルの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について実行可能性を検討すること

<選択項目>

- (5) クーリングシェルの指定・開放に向けての試行に関すること

<必須項目・選択項目以外で、モデル事業として試行・実施したい項目>

- (9) 若者への熱中症対策の訴求と関心づくり（あつさたいさくコンテスト）

【熊谷市】 2. モデル事業の取組概要

事業名：熱中症対策のデジタル化への取り組み

事業に期待する効果と効果の指標（KPI）

事業に期待する効果

- 市民や来訪される方が、まちなかの自動販売機に設置されたデジタルサイネージの暑さ対策動画を視聴することで、熱中症予防への啓発を促し、熱中症の予防につなげる。運営のスキームや経済条件を検証し、次年度以降に全国への水平展開ができるか検討する。
- クーリングシェルターの指定・開放・周知を行い、猛暑日の避暑先を市民へ認知させる。
- あつさたいさくコンテストを実施して、子供と保護者の方を対象に熱中症対策について考える機会を作り、熱中症予防の啓発を促す。

効果の指標(KPI)

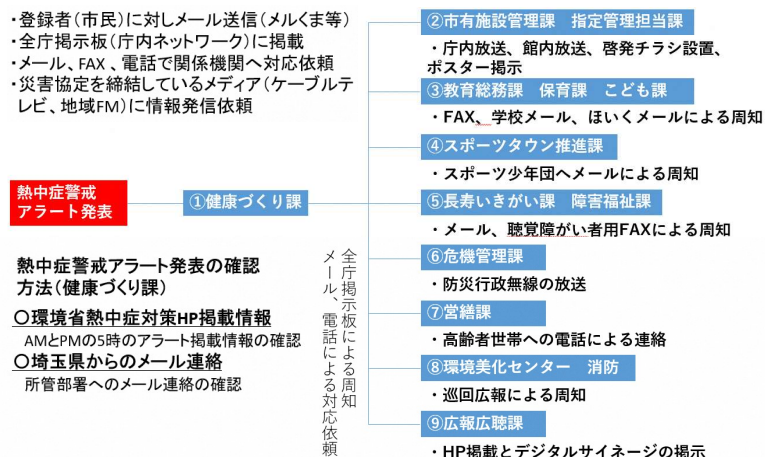
項目	内容	KPI
(2) (4)	デジタルサイネージの視聴人数	約9,000 人（10 か所×7.5 人（7～8人）/日×120 日）※対象自動販売機の販売数
(5)	クーリングシェルター指定数	10 か所
(5)	クーリングシェルター周知数	約9,000 人（75 人/日×120 日）※配布物の数で測定
(9)	あつさたいさくコンテスト応募数	約1,000 作品
共通	外部媒体での取り上げ本数	200 本 （テレビ、ラジオ、新聞、Web ニュース等）

【熊谷市】 3. モデル事業の取組内容

(必須項目1)熱中症警戒アラート発表時に備えた対応を策定すること

① 所管等

<庁内における連携体制と対応策一例>



<熱中症アラート発表時の伝達手段例(一部抜粋)※詳細は次ページ参照>

番号	部局名	対応
①	健康づくり課	○市民全体、全庁へ熱中症警戒アラート情報を発信
②	市有施設管理課 指定管理担当課	○来庁者、公共施設利用者に対し、熱中症警戒アラート情報を発信
③	教育総務課 保育課 こども課	○小中学校、幼稚園、保育所(市立・民間)、児童館、学童クラブ、児童養護施設等へメール、FAX
④	スポーツ観光課	○スポーツ少年団にメールで熱中症警戒アラート情報を発信
⑤	長寿いきがい課 障害福祉課	○高齢者施設、障がい者施設にメール、登録者にFAX送信し、熱中症警戒アラート情報を発信
⑥	危機管理課	○危機管理課による防災行政無線の放送
⑦	営繕課	○市営住宅の高齢者世帯に対し、電話連絡(期間中に1~2回)
⑧	環境美化センター 消防	○環境美化センター、消防による巡回広報
⑨	広報広聴課	○熱中症警戒アラート情報のHPへの掲載とデジタルサイネージの掲示

② 具体的な役割や対応

熊谷市では「アラート発表時の伝達手段例」を整理し、アラート発表時には主管課である健康づくり課から関係各課へ情報伝達を行い、各課が所管する施設や関係団体等へ確実に周知できる体制を構築している。また市民全体に対しては巡回広報、防災行政無線、熱中症予防情報メール、メール配信サービス、ケーブルテレビやコミュニティFM、ホームページ等による周知を図っている。アラートが発表された際は、屋外での運動を中止したり、不要不急の外出を避けたり、高齢者らに声掛けを行い、市民が自ら予防対策をとることなどを呼びかけている。

別紙「アラート発令時の伝達手段例」を参照

(必須項目1)熱中症警戒アラート発表時に備えた対応を策定すること

別紙【熱中症アラート発表時の伝達手段例】

- アラートが発表されたことを広く市民に周知する
- 具体的な行動や注意点をわかりやすく伝え、熱中症予防を呼び掛ける

担当課	対象者	情報伝達手段	取組
健康づくり課（主管課）	担当課職員	・全庁掲示板（庁内ネットワーク）に掲載（当日始業前までに）	関係機関へメール、FAX、電話連絡



教育総務課 保育課	小中学校・幼稚園 保育所（市立・民間） 児童館・学童クラブ等	・一斉FAX ・学校メール ・ほいくメール	教育委員会から小中学校、幼稚園へメール、FAX送信 保育所、学童クラブ、保護者等へメール送信
市有施設管理課	市役所来庁者 公共施設利用者	・庁内放送、館内放送 ・窓口に啓発チラシ設置 ・ポスターの掲示	広報広聴課、各行政センターへ館内放送を依頼する
指定管理担当課	指定管理施設利用者	・メール及びFAX	指定管理者に連絡 指定管理者は、園内放送や旗、看板掲示等を設置
こども課	地域子育て支援拠点 施設利用者＜親子＞ 児童養護施設	・FAX	地域子育て支援拠点・児童養護施設にFAX送信
スポーツタウン推進課	スポーツ少年団	・メール	スポーツ少年団にメール送信
長寿いきがい課 障害福祉課 危機管理課	高齢者施設・障害者施設	・メール ・聴覚障がい者用FAX	社会福祉法人（高齢者施設、障害者施設）にメール送信 登録者にFAX送信
営繕課	高齢者世帯	・電話連絡（期間中1～2回）	市営住宅の高齢者世帯へ電話連絡
環境美化センター 消防	市民全体 ＜農業従事者＞ ＜建設現場等屋外作業＞	・巡回広報	環境美化センター、消防による巡回広報
健康づくり課		・防災行政無線	危機管理課、消防本部（土日祝日）へ放送を依頼
健康づくり課		・熱中症予防情報メール ・メール配信サービス（メルくま）	登録者にメール送信（メール配信サービスは防災行政無線と同時）
健康づくり課		・ケーブルテレビ ・地域FM	災害応援協定を締結しているメディアに情報発信を依頼する
健康づくり課		・ホームページ、デジタルサイネージ	広報広聴課へホームページとデジタルサイネージを依頼する

【熊谷市】 3. モデル事業の取組内容

(必須項目1)熱中症警戒アラート発表時に備えた対応を策定すること

【熱中症警戒アラートの発表状況と体制における現状及び課題】

・熱中症警戒アラートが発表された際、特に熱中症リスクの高い方たちのうち、子どもや高齢者、障害者等に対しては、市から直接、関係団体に伝達する体制が構築できているが、建設業や農林水産業等の従事者に対しては、直接、関係団体に伝達する体制が構築できておらず、防災行政無線や巡回広報といった、市民に広く呼び掛ける方法での伝達に止まっていることが課題であると感じる。

【指摘への対応事項】

・中心市街地の熱中症対策の重要性の裏付けに係る熱中症救急搬送データの集計・分析（年齢層、期間、曜日、時間、行動形態などでリスクが高いのかについて）については、すぐに分析することは難しいため、今年度の事業実施期間の中で可能であれば実施する。

【熊谷市】 3. モデル事業の取組内容

(必須項目2)高齢者を対象とした熱中症予防行動の効果的な情報発信に関すること

・ 防災無線等を活用した呼びかけ

インターネットに疎い高齢者を含む全市民を対象に、熱中症予防の呼びかけとして、防災無線放送と青色パトロールを実施している。通常時には、水分補給や周りの人への気配りや声かけを行い、熱中症を予防するように呼びかけている。また、熱中症警戒アラートの発令時は、外出や屋外での作業をなるべく控えて、涼しい室内で過ごすように呼びかけてる。コロナ対応については、密を避け、マスクを一時的にはずして休憩する必要性についても周知している。上記のとおり、熱中症警戒アラートの発令時は、通常と異なる文言で啓発している。

※青色パトロール：夏季に青色パトロールに付随している拡声器で、熱中症予防の啓発を発信。

・ 高齢者世帯への呼びかけ

熱中症警戒アラートの発表時に、市営住宅の高齢者世帯へ電話で連絡をしている。

【熊谷市】 3. モデル事業の取組内容

(必須項目3)庁内における横断的連絡体制の整備に関すること

・経営戦略会議の実施

庁内の横断的な連絡調整は、部長を委員とする経営戦略会議が担っており、夏期の会議において、消防本部から報告される市内の熱中症救急搬送状況や熱中症警戒アラートでの対応方針等について共有している。

庁内

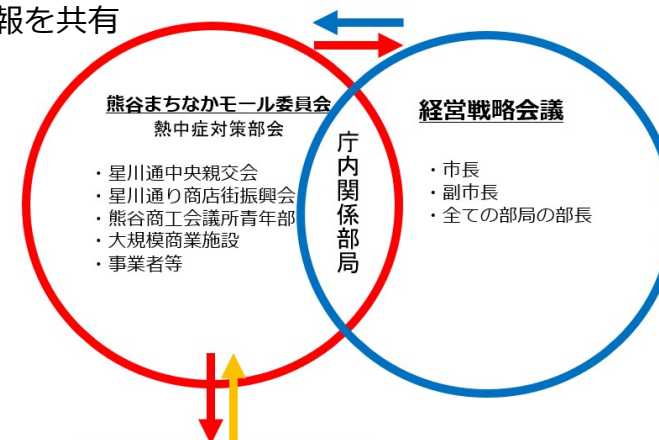
市長、副市長ほか全ての部長が出席する経営戦略会議にて情報を共有

- ・搬送者数報告、顕著な高温発生時の臨時対応策(車両巡回放送の閉庁日対応、単身高齢者・高齢者のみの世帯への注意喚起・現状確認など)
- ・夏期の会議において、消防本部から報告される市内の熱中症救急搬送状況や熱中症警戒アラートでの対応方針等について共有

庁外

「熊谷まちなかモール委員会」に熱中症対策部会を設置

- ・星川通中央親交会、星川通り商店街振興会を始め、庁内関係部局（産業振興部）、熊谷商工会議所青年部や、中心市街地にある大規模商業施設、事業者等で構成される「熊谷まちなかモール委員会」に、熱中症対策部会を設けた。
- ・毎月商工会議所に集まり、モデル事業の進捗の共有、商店街内の課題、懸案事項等について話し合いを実施。
- ・浜松市、四万十市、多治見市、山形市の民間団体と暑さ対策を行う一般社団法人アツいまちとも連携をして、一地域で終わらない取組、情報発信を積極的に実施。



一般社団法人アツいまち

- ・浜松市
- ・四万十市
- ・山形市
- ・多治見市

- ・庁内は、「経営戦略会議」において情報を共有する。
- ・庁外は、「熊谷まちなかモール委員会」に熱中症対策部会を設置する。
- ・「一般社団法人アツいまち」と連携、地域を超えた取組、情報発信を積極的に行っていく。

【熊谷市】 3. モデル事業の取組内容

(必須項目4)「クーリングシェルの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について
実行可能性を検討すること

- ・「クーリングシェルの指定・開放」

＜選択項目 5＞に記載。

- ・「熱中症対策に関連して地域で活動する団体との協働」

株式会社伊藤園と連携し自動販売機にデジタルサイネージを組み込み、高齢者の利用が見込まれる施設や多くの人が行きかう場所に設置する。デジタルサイネージでは、熱中症予防に関する動画や画像を放映し、暑さ対策の取組紹介や情報発信、クーリングシェルの告知など、暑さ対策の案内を積極的に行う。また、運営のスキームや経済条件を検証し、次年度以降に全国への水平展開ができるかを検討する。そして、昨年同様一般社団法人アツいまちとも連携をして、メディアを活用した暑さ対策の浸透を図っていく。

※高齢者を対象としている情報発信も兼ねているため、項目（2）にも該当

※デジタルサイネージでは、暑さ情報や暑さ対策動画（2022年度実施のものを含む）など複数のコンテンツ作成を予定し、単調なコンテンツにならないように市内の情報を織り込むなどの工夫を検討する。

【熊谷市】 3. モデル事業の取組内容

(選択項目5) (5) クーリングシェルトアの指定・開放に向けての試行に関すること

・ (5) クーリングシェルトアの指定・開放に向けての試行に関すること

熊谷市では夏季に市内の一部公共施設を「まちなかオアシス事業」として、一時的な休息所として開放している。上記の施設では、飲料や熱中症対策キットを備え付け必要に応じて無料で提供し、体調回復に役立てている。また、民間団体の協力のもと民間施設の一部を「クールシェアスポット」として、指定している。

ただし、過去に例のない大熱波を想定した避暑先としての体制ではないため、クーリングシェルトアの指定・開放に向けて試行を行う。

(必須項目・選択項目以外で、モデル事業として試行・実施したい項目)

・ 若者への熱中症対策の訴求と関心づくり（あつさたいさくコンテスト）

あつさたいさくアイデアコンテストを実施し小学生がアウトプットできる場所を用意する。応募の結果は、大型商業施設、熊谷駅などと連携して展示や企業協賛による参加者の増加を図る。

本年は昨年の取り組みに追加して、伊藤園健康ミネラルむぎ茶パッケージへの印刷等による飲料販売とタイアップ（製造本数約12万本/年）をして周知を行い、市内にとどまらず熱中症対策に関心を持っていただく。

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目1)熱中症警戒アラート発表時に備えた対応を策定すること

(必須項目2)高齢者を対象とした熱中症予防行動の効果的な情報発信に関すること

(必須項目3)庁内における横断的連絡体制の整備に関すること

・熱中症警戒アラートの発表状況と体制における成果及び新たな課題

熱中症警戒アラートが発表された際、特に熱中症リスクが高くなる子どもや高齢者、障害者等に対して、市から関係団体へ直接伝達や防災行政無線や巡回広報といった市民に広く呼び掛ける方法で伝達することを継続して実施した。

しかし、建設業や農林水産業等の従事者に対しては、直接、関係団体に伝達する体制が構築できておらず、防災行政無線に留まっていることが課題として継続することとなった。

・防災無線等を活用した呼びかけ

高齢者を含む全市民を対象に、熱中症予防の呼びかけとして、防災行政無線放送と塵芥収集車巡回による放送、安心館巡回による放送、青色パトロールを実施した。通常時には、水分補給や周りの人への気配りや声かけを行い熱中症を予防するように呼びかけ、熱中症警戒アラートの発令時は、外出や屋外での作業をなるべく控えて、涼しい室内で過ごすように呼びかけた。

※次のページに熱中症予防のための防災無線及び車両巡回の実施フローを示す。

※熊谷駅前防犯センター安心館（安心安全課防犯係）

・経営戦略会議の実施

庁内の横断的な連絡調整は、部長を委員とする経営戦略会議において、消防本部から報告される市内の熱中症救急搬送状況や熱中症警戒アラートの対応方針等について共有した。

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

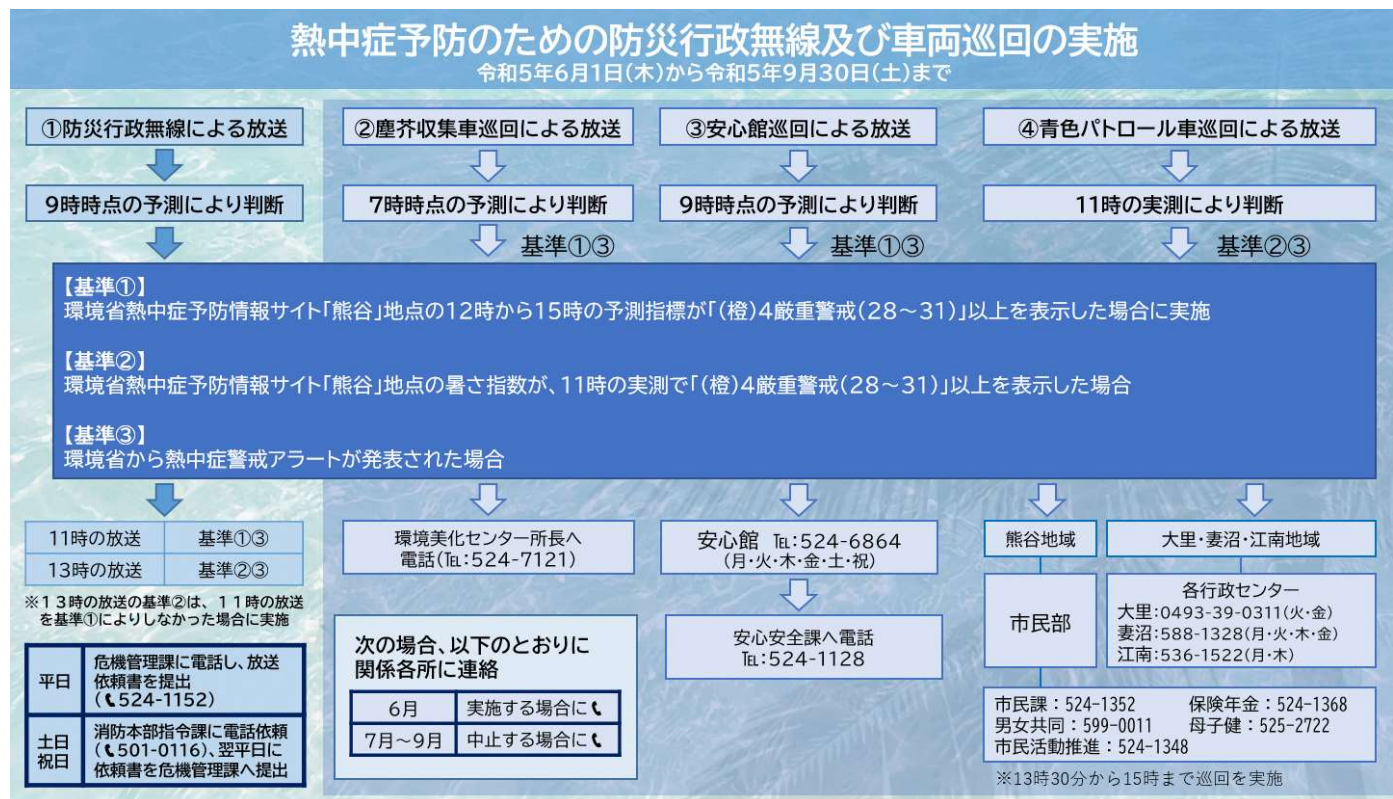
事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目1)熱中症警戒アラート発表時に備えた対応を策定すること

(必須項目2)高齢者を対象とした熱中症予防行動の効果的な情報発信に関すること

(必須項目3)庁内における横断的連絡体制の整備に関すること

熱中症予防のための防災無線及び車両巡回の実施



【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目4)「クーリングシェルトアの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について
実行可能性を検討すること

(選択項目5) (5) クーリングシェルトアの指定・開放に向けての試行に関すること

・クーリングシェルトアの指定・開放の試行実施

開設期間	令和5年6月1日(木)～9月30日(土) ※開庁・開館日、営業日に限る。	
開設場所 (公共施設)	7施設	本庁舎1F,大里行政センター1F,妻沼行政センター1F,江南行政センター1F, 中央公民館1F,妻沼中央公民館1F,さくらめいと1F(文化会館)
開設場所 (民間施設)	4施設	有限会社横山酒店(商店),株式会社八木橋1F(商業施設), アズ熊谷6F(熊谷駅直結商業施設),市川建設株式会社1F(8月から)
配布物	ポスター2種類(掲示) チラシ(A4両面印刷) 冷タオル(花王社)約20,000本	
周知方法	ポスターの設置やチラシの配布 まちなかのデジタルサイネージで周知 ホームページに掲載	
利用者数	16,680人(冷タオル配布数)	



【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目4) 「クーリングシェルターの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」
実行可能性を検討すること

(選択項目5) (5) クーリングシェルターの指定・開放に向けての試行に関すること

・クーリングシェルターの利用者の推移について

左記の記載用紙を各施設へ設置（一部施設は除く）し、利用者のデータを収集した。

記載項目：日付の記入と年齢区分（新生児、乳幼児、学生、成人、高齢者）に○を付ける。

本庁舎

冷タオルを受け取った方は、ご記入ください。
ご協力をお願いいたします。

日付	年齢区分
7月2日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月3日	新生児・乳幼児・学生・成人・ <u>高齢者</u>
7月4日	新生児・乳幼児・学生・成人・ <u>高齢者</u>
7月5日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月6日	新生児・乳幼児・学生・成人・ <u>高齢者</u>
7月7日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月8日	新生児・乳幼児・ <u>学生</u> ・成人・高齢者
7月9日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月10日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月11日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月12日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月13日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月14日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月15日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月16日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月17日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月18日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月19日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月20日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月21日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月22日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月23日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月24日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
7月25日	新生児・乳幼児・学生・ <u>成人</u> ・高齢者
合計	

問い合わせ先：環境政策課（048-536-1547）

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

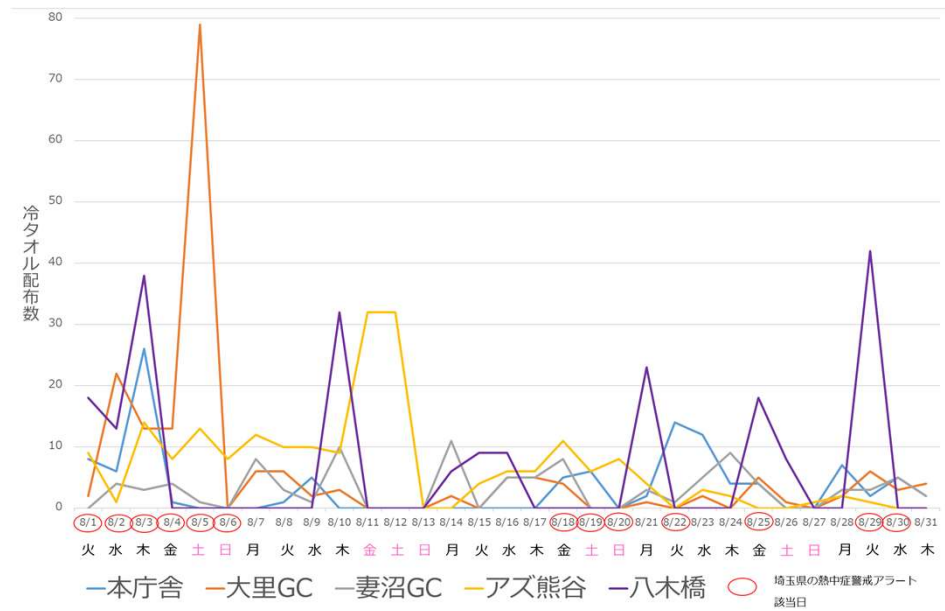
事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目4)「クーリングシェルの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について
実行可能性を検討すること

(選択項目5) (5) クーリングシェルの指定・開放に向けての試行に関すること

・クーリングシェルの利用者の推移について

		本庁舎	大里GC	妻沼GC	アズ熊谷	八木橋	熱中症警戒アラート対象日
8月1日	火	8	2	0	9	18	○
8月2日	水	6	22	4	1	13	○
8月3日	木	26	13	3	14	38	○
8月4日	金	1	13	4	8	0	○
8月5日	土	0	79	1	13	0	○
8月6日	日	0	0	0	8	0	○
8月7日	月	0	6	8	12	0	○
8月8日	火	1	6	3	10	0	
8月9日	水	5	2	1	10	0	
8月10日	木	0	3	10	9	32	
8月11日	金	0	0	0	32	0	
8月12日	土	0	0	0	32	0	
8月13日	日	0	0	0	0	0	
8月14日	月	0	2	11	0	6	
8月15日	火	0	0	0	4	9	
8月16日	水	0	5	5	6	9	
8月17日	木	0	5	5	6	0	
8月18日	金	5	4	8	11	0	○
8月19日	土	6	0	0	6	0	○
8月20日	日	0	0	0	8	0	○
8月21日	月	2	1	3	4	23	
8月22日	火	14	0	1	0	0	○
8月23日	水	12	2	5	3	0	
8月24日	木	4	0	9	2	0	○
8月25日	金	4	5	4	0	18	
8月26日	土	0	1	0	0	8	
8月27日	日	0	0	0	1	0	
8月28日	月	7	2	3	2	0	
8月29日	火	2	6	3	1	42	○
8月30日	水	5	3	5	0	0	○
8月31日	木	2	4	2	0	0	
合計		110	186	98	212	216	14回



※本庁舎、大里GC、妻沼GCの公共施設は、基本的に平日開放し、民間施設は営業日を開放日とした。

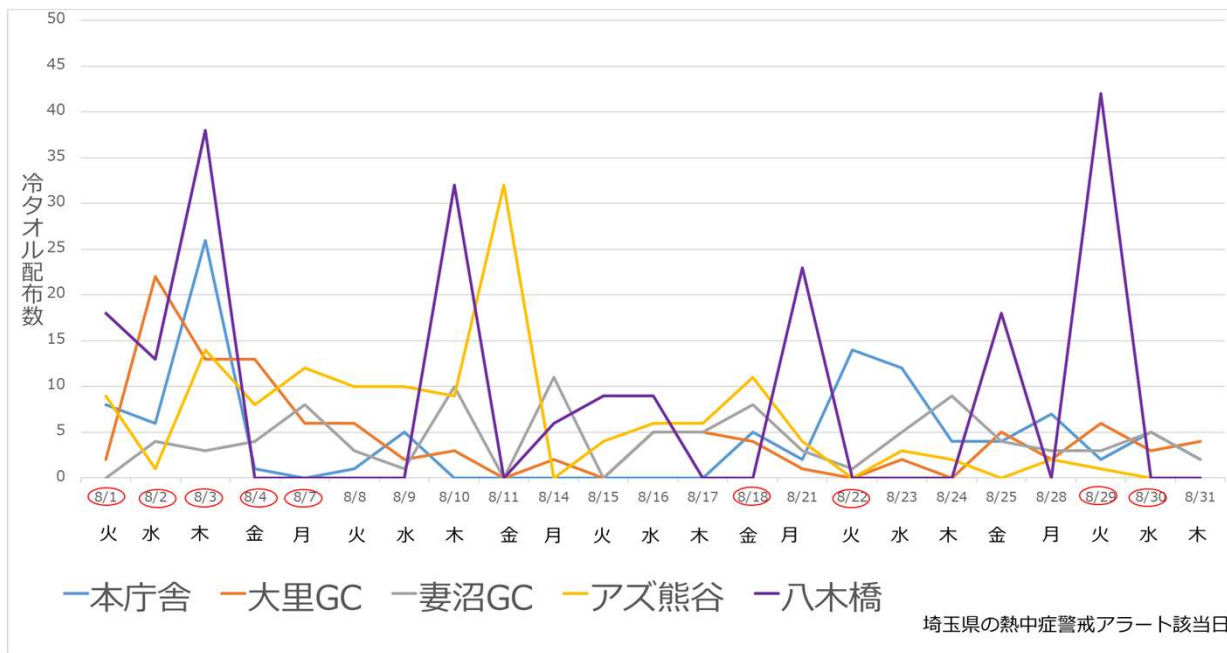
【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目4)「クーリングシェルの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について
実行可能性を検討すること

(選択項目5) (5) クーリングシェルの指定・開放に向けての試行に関すること

・クーリングシェルの利用者の推移について（公共施設の平日）



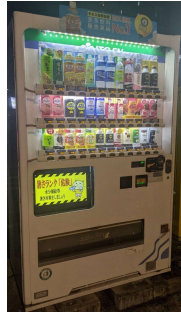
※本庁舎、大里GC、妻沼GCは、7/31(月)～8/5(土)が埼玉県知事選挙の期日前投票所の会場であったため、通常より利用者が増加していたことが想定される。

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(必須項目4)「クーリングシェルの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について
実行可能性を検討すること

・デジタルサイネージの設置について

	上部設置型	中腹設置型	サイネージ型
設置期間	令和5年6月1日(木)～9月30日(土)		令和5年8月1日(火)～継続
設置台数	4台	5台	1台
設置場所	・有限会社横山酒店前 ・元気玉前 ・熊谷駅東口階段下 ・熊谷駅南口第一駐車場	・八木橋百貨店地下入口 ・中央公園 ・伊勢町ふれあい公園 ・荒川公園 ・タイムズ熊谷星川	・熊谷駅連絡通路
参考			
	熊谷駅東口	星川通りタイムズ	熊谷駅ティアラ連絡口（2階）
視聴人数	14,821人（全体の売上本数）		

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等
(必須項目4)「クーリングシェルトアの指定・開放」及び「熱中症対策に関連して地域で活動する団体や企業等との協働」について
実行可能性を検討すること

・デジタルサイネージのコンテンツについて



【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

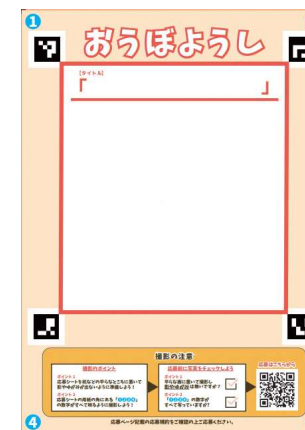
事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等
(必須項目・選択項目以外で、モデル事業として試行・実施したい項目)

・わたしのあつさたいさくコンテスト

応募対象		熊谷市内版 熊谷市内の小学生 ※全小学校に配布
実施期間	コンテスト募集期間	令和5年6月1日(木)～7月24日(月)
	ポスター掲示場所/期間	アズ熊谷5F/募集開始から9月30日(土)まで
	表彰式	令和5年8月11日(金)
表彰数		42名
応募者数		286人



表面



裏面

※全国版として、本事業の費用外で全国の小学生を対象に実施した結果、149名からの応募があった。

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業の効果と効果の指標（KPI）及び課題

事業の効果

- ・ 市内のクーリングシェルの認知度を向上に繋がった。
- ・ 民間施設や市民への認知度が向上した。
- ・ 市民や来訪者の熱中症対策の啓発の繋がった。また、こどもと親といった層への啓発に繋がった。
- ・ 既存事業の見直しになった。

効果の指標(KPI)

項目	内容	KPI	結果
(2)(4)	デジタルサイネージの視聴人数	約9,000 人	14,821人
(5)	クーリングシェルター指定数	10 か所	11か所
(5)	クーリングシェルター周知数	約9,000 人	16,680人
(9)	あつさたいさくコンテスト応募数	約1,000 作品	435作品 (全国版も含む)
共通	外部媒体での取り上げ本数	200 本	200本以上※

※二次媒体で取り上げられることもあり、確認できた件数より実際は多くなるため「以上」と表記している。

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業の効果と効果の指標（KPI）及び課題

外部媒体での取り上げ

TV	9 件以上
紙	3 5 件 以上
WEB	1 6 0 件以上

紙媒体

高知新聞、埼玉よみうり、埼玉新聞 等

TV

NHK、TBS 等

【熊谷市】 4. モデル事業まとめ

事業に対する課題

◎クーリングシェルトーの取組

- ・まちの代表的な施設の指定しかなかったため、より身近となる施設の指定の必要性
- ・指定場所のフロア設定
- ・クーリングシェルトーの認知度
- ・クーリングシェルトーへの移動手段
- ・施設の収容人数の把握
- ・土日の対応

◎自動販売機につけたデジタルサイネージ

- ・サイネージを観た年齢層などの把握
- ・サイネージの設置場所
- ・啓発動画の見やすさ（サイズ、フォント）など
- ・設置や電気代などの費用対効果

◎わたしのあつさたいさくコンテスト

- ・さらなるコンテストの認知度向上
- ・暑さ対策のアイデアの活用
- ・継続実施する際の費用の捻出

【熊谷市】 6. 現在の熱中症対策の取組状況・独自予算

(1)取組状況の概要

①駅広場冷却ミスト事業

駅前に冷却ミストを次の気象条件がそろった時に自動運転を行う。5月～10月の7時～20時に、
ア.気温28℃以上、イ.湿度75%未満、ウ.風速3m未満、エ.降雨なし

②小学校/中学校 緑のカーテン推進事業

小中学生が花の苗やプランター等を用意し、ベランダ型や壁面型の緑のカーテンを作り、建物への直射日光を避け、植物の蒸散作用により教室内の温度上昇を抑制し、児童・生徒の環境問題への関心を高めること。

(2)独自予算額等

①駅広場冷却ミスト事業

独自予算額等：1,980,000円（＋光熱費218,000円）

②小学校/中学校 緑のカーテン推進事業

独自予算額等：3,741,000円

【熊谷市】 7. 年間スケジュール

令和5年度	実施内容（概要）
4月	・請負業者ほか共同実施者との打合せ（年間プラン作成） ・庁内体制整備 ・今夏の取組の企画調整開始 ・サイネージコンテンツ制作 ・あつさいさくコンテスト打合せ開始
5月	・サイネージコンテンツ制作
6月	・サイネージ環境準備 ・アツイまちサミット参加 ・あつさいさくコンテスト募集開始
7月	・デジタルサイネージ運用開始 ・あつさいさくコンテスト結果発表 ・商業施設での暑さ対策の発信（7～8月）
8月	・あつさいさくコンテスト表彰式 ・あつさいさくコンテスト商店街、大型商業施設、熊谷駅等展示
9月 10月	(9～10月) ・リスク評価や試行的実施結果の検証 ・熱中症アラートの「民から民へ」の伝達手段の検討 ・環境省に中間報告書を提出 ・デジタルサイネージ運用停止
11月	・有識者や専門家からの助言を踏まえ熱中症アラート「民から民へ」の伝達手段の修正 ・暑さへの取り組み冊子作製
12月	・環境省に最終報告書を提出
1月	・環境省の検討会における成果報告の結果を踏まえ、計画や報告書を修正
2月	・熱中症アラート発表時の伝達手段例」の更新 事業完了
3月	—